

新除草・調節剤

レナパック

P L 除草剤

(取扱メーカー) 丸和物産株式会社
北興化学工業株式会社

対象作物；移植および直播ビート

性状・作用特性；本剤は、レナシル（3-シクロヘキシル-5, 6-トリメチレンウラシル）を40%、PAC（1-フェニル-4-アミノ-5-クロルピリダゾン-6）を30%含む水和性の混合剤である。ビートに選択的に安全性の高い除草剤として、定植活着後処理が昭和44年度より普及されているが、直播ビートの本葉2～3葉期処理についても45年度より実用化となった。本剤は、レナシル、PACの特性を相乗的に作用させ、雑草に対する有効範囲を拡大し、除草効果を高めたものである。対象雑草は、畑地一年生イネ科・広葉雑草で、例えばハコベ・アカザ・タデ・イヌビエ・ナギナタコウジュ等である。

本剤に非イオン表面活性剤を加用すると、雑草に対して接触吸収作用が増し、生育中の雑草をも枯死させることができる。

土壌中の移行性は小さく、また安定した物質で、分解し難く効果の持続期間も極めて長い。

毒性；本剤の動物に対する急性経口毒性は、ラットで $LD_{50} = 11,000 \text{ mg/Kg}$ （レナシル）、 $LD_{50} = 3,600 \text{ mg/Kg}$ （PAC）であり、魚類の稚ゴイで $TLM(48 \text{ 時間}) = 110 \text{ ppm}$ 以上（レナシル）、 $TLM(48 \text{ 時間}) = 20 \text{ ppm}$ 以上（PAC）で、普通物である。

使用方法；移植ビートの場合、定植活着後10アール当たり200～300g、直播ビートで

は、本葉2～3葉期200gを100ℓの水に溶かし、非イオン表面活性剤150～200ccを加えてよく混ぜ、加圧噴霧機で全面均一に散布する。いずれの場合も、雑草発生初期に散布することになるが、雑草生育期に処理する場合には必ず表面活性剤を加用すること。

セルビーン水和剤

S L D - 695 除草剤

(取扱メーカー) 石原産業株式会社

対象作物名；小豆・菜豆

性状・作用特性；本剤は、C1-IPCとリニュロンの混合剤でC1-IPC（17.5%）・リニュロン（7.5%）の混合比を持つ水和剤である。

C1-IPCは成分5～7g/aを必要とし、リニュロンは成分1.5～2g/aを必要とする。これに比し、本剤は成分としてC1-IPC 3.5～4.2g/a並びにリニュロン1.5～1.8g/aで各単剤に比し極めて良好な除草効果を示し、薬害はより少ない。

毒性；両剤とも普通物で、動物に対する急性経口毒性は、ラット $LD_{50} = 3,800 \sim 5,000 \text{ mg/Kg}$ （C1-IPC）、 $LD_{50} = 3,500 \text{ mg/Kg}$ （リニュロン）であり、魚類のコイで $TLM(48 \text{ 時間}) = 10 \text{ ppm}$ （C1-IPC）、 $TLM(48 \text{ 時間}) = 80 \text{ ppm}$ （リニュロン）である。

使用方法；小豆・菜豆に対し使用でき、主たる対象雑草はオオイヌタデ・ハコベ・シロザ・タデ類等畑地広葉一年生雑草であり、使用時期・使用量は小豆・菜豆の播種後～発芽前にかけて製品として20～24g/aを10～15ℓの